

令和5年度 狛江市立学校第三者評価委員会 報告書 概要版

1 狛江市立学校第三者評価委員会委員

【委員】

委員長	帝京大学大学院 教授	坂本 和良
委員	一般財団法人 教育調査研究所 研究部長	大橋 明
委員	淑徳大学総合福祉学部 教授	米村 美奈
委員	横浜 DeNA ベイスターズ 元監督	中畑 清

【事務局】

狛江市教育委員会教育部理事兼指導室長	松岡 弘悟
狛江市教育委員会教育部指導室統括指導主事	柳田 裕司

2 第三者評価実施概要

平成24年度までは全小中学校を毎年評価対象校としていたが、平成25年度から全校を中学校区によって2グループに分け、5校ずつを隔年で評価することにより、短期的な評価に加え、2年間のスパンで中期的な評価を実施することとした。

これまで評価委員による学校訪問を年2回実施し、1回目に評価の観点における各校の課題の確認、2回目にその課題に対する取組状況や改善内容を確認することで、より学校の実態に沿った評価を推進した。

令和2・3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえ、直接の学校訪問ではなく、動画視聴やライブ配信の方法を取り入れ、学校と評価委員がオンラインで直接質疑応答や授業観察を行う形式で実施した。令和4年度は感染症対策を行ったうえで、全て直接の学校訪問を実施し、3年ぶりに学校の状況を直接確認し評価を行った。令和5年度も同様に、直接の学校訪問を実施した。

3 令和5年度評価対象校及び評価の観点

学校名	観点①	観点②
狛江第一小学校	ESDの取組	ICT機器の活用
狛江第五小学校	「考える子」の育成	「明るい子」の育成
緑野小学校	人権を尊重する態度の育成	生命を尊重する態度の育成
狛江第一中学校	「ESDの視点を取り入れた教育活動」による生徒の学力向上	ICT機器の学習への効果的な活用
狛江第四中学校 ※	第1回	効果的な話し合い・教え合い活動の実践 主体的に学習に取り組む生徒を育てるための評価の工夫
	第2回	デジタル教材を活用した効果的な授業 主体的に学ぶための課題の工夫

※ 狛江第四中学校は、令和5年度狛江市教育研究奨励校の発表に係る校内研究において、4つの分科会を設定した。本事業において分科会毎の助言をいただくため、第1回と第2回の観点が異なる設定とした。

4 狛江市立学校第三者評価委員会の経過

- (1) 学校説明、学校経営方針説明、第1回学校訪問
令和5年6月23日(金)～令和5年7月14日(金)
- (2) 第1回訪問時の指摘事項の改善状況の確認、第2回学校訪問
令和5年12月13日(水)～令和6年1月24日(水)
- (3) 報告書検討会
令和6年3月6日(水)

5 総括

(1) 学校経営の状況について

- 今回評価の対象となった学校は、どこも落ち着いた雰囲気の中、児童・生徒がはつらつと活動していたことから、充実した教育が行われていることが確認できた。今後も「誰一人取り残さない」学校教育を実現するため、更に個に応じた指導を展開することが望まれる。
- いじめの認知件数が増加しており、各学校において「いじめ見逃しゼロ」に向けた取組が推進されていることは評価できる。人権教育の効果的な推進等、いじめの未然防止にも力を入れるとともに、いじめ防止対策推進法及び学校いじめ防止基本方針の理解を徹底してほしい。
- 各学校においてICT機器が効果的に活用されていた。今後は活用場面を取捨選択し、引き続き、本時の目標を達成するための授業づくりを追究してほしい。
- 小学校では交換授業や一部教科担任制を先進的に取り入れて実践している学校があった。特定の教科の専門性を高めるとともに、若手教員は全教科について基本的な指導技術が習得できるようにすることも必要である。
- 人事異動等でこれまでの実践や研究成果が途切れることのないよう、今年度の成果を指導計画等に確実に反映させるなど、学校として定着させることが大切である。
- 働き方改革が求められる現在、各学校において教員の意識改革を含め具体的な方策に取り組んだ結果、在校時間の短縮等の結果に結び付いている点は評価できる。

(2) 教育委員会の支援

- 校長のリーダーシップにより、教育活動の成果が明らかになってきている。平素の学習でも、各学校における研究の成果が生かされるとよりよいものとなる。校内研究等で授業研究を行う際は、研究成果をどのように生かすかを含め、指導してほしい。
- 中学校区毎のコミュニティ・スクールの取組について、小中ですべてを統一して行うことは難しいと思うが、入学してくる生徒にとって、小学校での取組と中学校での取組が連続していることが重要である。教育委員会として研究活動がゾーン内の小・中学校の取組として連続するよう情報を提供してあげてほしい。
- ウェルビーイングの視点からも働き方改革が進むことが望ましい。そのため、授業力等に課題がある場合、教材研究や指導法についての情報を積極的に提供してあげてほしい。
- 若手教員の育成については、日本中の多くの学校で悩んでいる。若手教員を集めて研修することも大切だが、指導主事が学校訪問をして授業参観、指導・助言をするなど地道な取組が必要である。その際に校長等から、当該の若手教員に対して行うべき指導・助言のポイントを明確に聞き取り、ピンポイントで行うことができるとよい。
- タブレット端末の画面が小さいため、表示される文字も小さい。文字サイズを変更できるのだがあまり気にかけていないようだったが、児童・生徒の視力に影響が出てくるのが心配である。あまり小さな文字で画面を見たり入力したりすることのないよう全校に指導するべきである。

6 各学校における主な評価

【狛江第一小学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 総合的な学習の時間で活動内容を議論させる際、児童のやりたいという気持ちを大切にすることは重要だが、現実問題として実現可能かどうかも併行して授業者は意識する必要がある。今後そうした発言が出てくることも想定した準備が必要であろう。 ◆ 授業の中でICT機器を活用することはかなり進んでいると感じた。今後は活動内容に合わせて児童がICT機器の活用を判断させるようにするということがあったが、併せて情報モラルの教育を十分に行ってほしい。
【狛江第五小学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 方法は同じようにしてもゴールが異なることがないようにするため、「考える子」の具体的な姿について、共通理解を図る必要がある。 ◆ 今年度、いじめ防止対策、不登校対策の取組が強化された。別室を用意し、教員を配置した不登校児童の対応を始めたことは素晴らしい。こうした対応が継続的に実施できるよう、学校外との連携も視野に入れることを検討してほしい。
【緑野小学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 他の児童の意見を受け入れることはもとより、互いの人権を尊重することの大事さをどのように考えさせるかも検討してほしい。 ◆ 生命の尊重をテーマにした難易度が高い授業であった。教員が覚えさせたり、教え込んだりする内容ではない。考えさせ、感じさせることに重きをおく道徳の内容の場合、教員が児童を誘導しない学ばせ方が大切である。
【狛江第一中学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学習指導案に示された視点と授業内容が一致しているかどうかは今後よく検討する必要がある。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善も併せて本校では取り組んでいるので、両方の視点を組み合わせるような工夫も今後の検討材料としてもよい。 ◆ 全般に授業の場面に即した無理のないICTの活用ができてきている。ここをベースに様々な活用することにチャレンジしてほしい。そのために、ICT機器活用の実践について教師同士が交流することが必要だと思う。
【狛江第四中学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ デジタル教科書を使ったものとそうでないものの2通りの数学の授業を参観したが、実物模型を使った授業の方が生徒に受けがよかった。デジタルの方がよい場合のみ活用すればよいのだが、どのような場面がよいかを今は事例を多く集めるようにしてほしい。 ◆ 生徒が主体的に学ぶには、課題の工夫(生徒が興味・関心がもつ課題)とともに、生徒が様々な事象の中から課題を発見することが大切である。この過程を研究していく必要がある。小学校での実践研究の成果を参考にすることも大切である。